

防人さきもりに行くは誰ゆが背せと問ふ人ひとを見るが羨ともしさ物思ものもひもせず

*誰が背と：誰の旦那さんだろうと。この言葉からこの歌が妻の気持ちを詠んだものだと分かる。

*羨しさ：うらやましい。こう詠むことで夫を防人に立たせることになった妻の悲しい気持ちがつよく感じられる。

*物思ひもせず：なんの心配もしないで。

☆名歌である。磐余伊美吉諸君なる者が、「昔年の防人の歌」を「抄写」して大伴家持に贈った八首うちの一首であるが、歌の作者は不詳。三年ごとに東国の人々は今年は誰が選ばれるかと心配していたのだろう。

▽参考 杜甫「兵車行」(『中国名詩選』中)

中国、唐の時代に玄宗の遠征政策を批判した詩。兵士を氣遣う大伴家持の防人歌の発想もこうした漢詩の影響があると想われる。

▽コラム ―太平洋戦争と兵士の留守家族

かつて、太平洋戦争では弾除けのまじないとして、出征兵士に千人針の腹巻を贈る習慣があったという。千人針は女性の役目。また「千人力」のチョッキを贈る習慣もあったという。チョッキの内側に四七三(死なさん)と書いて、表に「力」字を千字書き、千人で兵士を守る意味を込めたという。天皇のために死ぬのが名誉とされていた時代の、せめてもの隠れた抵抗。